

研修報告書No. 7

所 属：県外大学病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院

医療法人聖真会 渭南病院

宿毛市立沖の島へき地診療所

私は高知県幡多地区の宿毛にある大井田病院、離島の沖の島診療所、土佐清水にある渭南病院で研修をしました。今回の研修において様々な地域ならではの仕組み、取り組みと医療の現状を学ぶことができました。

〈大井田病院〉

大井田病院では午前中は主に外来診療、午後は普段あまり馴染みのない往診や訪問看護に同行し、地域包括センターやデイケアの見学をしました。

大井田病院の取り組みで印象に残ったことは、病院内だけでなく院外の施設やサービスとの連携が濃密であり、退院後の患者の展望の道筋をしっかりとつけていることでした。今後は医療だけでなく介護にも医師のリーダーシップが必要になっていくと感じました。

実際訪問にしてみると医療を必要としていない人もいることを目の当たりにし、医療以外の面を地域全体でサポートしていくという姿勢を実際の現場で学べたことは非常に良かったと思います。

〈沖の島診療所〉

離島での医療がどのようなものか以前から興味がありました。実際限られた医療資源の中で診察する難しさを感じましたが、患者さんの訴えからいかに病状を把握できるかということにやりがいを感じることができました。本土での連携において電子カルテを使用していることや、医師が不在の時でも通信機器を使って通信できること知り、思った以上に先進的であることに驚きました。

〈渭南病院〉

渭南病院では午前中外来、病棟で診療を行い、午後は往診、施設回診に同行させていただきました。特に印象に残ったことは、地域の中核病院まで1時間程かかるので、重症患者をすぐ送るのではなく、自院でなるべく対応する姿勢に土佐清水の中心病院である自覚と誇りを感じました。総合診療の大切さを改めて実感し、専門科にとらわれない幅広い知識をもって診療する先生方の姿に自分の今後の臨床医としての理想像が明確になりました。

〈まとめ〉

地域研修を通じて入院から退院後の道筋を責任をもって取り組む姿勢を学べました。今後高齢化社会に進むにつれ、都市部でも地域のような在宅医療、介護の介入が必要となるケ

一スが多くなると考えられます。今回の研修で学んだことを今後に活かしていきたいと思っています。